

令和4年度第1回対馬市総合教育会議 会議録	
1. 開会日時	令和4年12月22日(木) 午後3時30分
2. 場 所	対馬市役所厳原庁舎 別館大会議室
3. 出席委員	比田勝市長、中島教育長、一宮委員、佐伯委員、齋藤委員、早田委員
4. 出席者	総務部：木寺部長 教育委員会事務局：八島部長、扇次長、大浦課長、梅野課長、川辺課長、原田課長補佐
5. 会議書記	梯主任
6. 閉会日時	令和4年12月22日(木) 午後4時58分
7. 議 事	
日程第 1	市長挨拶
日程第 2	議題1 コミュニティ・スクール導入推進に向けて
日程第 3	議題2 島っこ留学推進事業について

進行・梯	<p>皆さんこんにちは。総務課の梯と申します。本日はお集まりいただきまして誠にありがとうございます。総務課長の一宮が出張中でありまして、代わりに総務部長の木寺が進行を務める予定でありましたが、別の会議で遅れてくると連絡がありましたので、大変恐縮ですが私の方で進行を務めさせていただきます。</p> <p>ただいまから令和4年度、第1回対馬市総合教育会議を開催いたします。</p> <p>まず、開会にあたり、市長の比田勝がご挨拶を申し上げます。</p>
比田勝市長	<p>皆さん、こんにちは。本日は大変お忙しい中、令和4年度第1回対馬市総合教育会議にお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。また、委員の皆様には日頃から対馬市の教育行政の推進のために、日々ご尽力をいただいておりますことに対して、厚く御礼を申し上げます。</p> <p>さて、文部科学省が全国の公立小中学校を対象に実施いたしました調査によりますと、児童、生徒の8.8パーセントに発達障害の可能性があり、10年前の前回調査から2.3ポイント上昇したとの報道がございました。この結果を文部科学省は、特別支援教育の知識がある教員が少なく、適切な支援ができていない可能性があると分析しております。</p> <p>本市におきましても、特別支援学級で学ぶ児童生徒は120名前後と伺っておりますが、公立学校で慢性化していると言われる教員不足の中、保護者からの期待を背に日々奮闘されている教職員の皆様には心から敬意を表する次第でございます。</p> <p>本日の議題は、「コミュニティ・スクールの導入推進に向けて」と、「島っこ留学推進事業について」の、この2件でございます。</p> <p>1点目のコミュニティ・スクールにつきましては、現在は佐須奈小中学校の1校のみが導入していると伺っておりますが、今後の方向性につきまして、皆様と議論をいたし共有できればと考えております。</p> <p>2点目の島っこ留学制度につきましては、島外から児童生徒を受け入れることで、複式学級の解消や受け入れた学校の児童生徒にとっても良い影響をもたらしているようでございますが、その一方では、里親の確保も大きな課題となってきております。原点回帰と申しましうか、昔は地域の中で子どもを育ててきたものというふうに聞いております。</p> <p>コミュニティ・スクールの活動と有機的に連動すれば、里親についての課題解決の道筋が見えてくるのではないかと個人的には考えてお</p>

	<p>ります。</p> <p>委員皆様の忌憚のないご意見を賜り、今後の教育行政に生かしてまいりたいと存じます。本日はどうかよろしくお願ひいたします。</p>
進行・梯	<p>ありがとうございました。これからは、着座のまま進行させていただきます。</p> <p>それでは次第の3、議題に移ります。初めに「コミュニティ・スクール導入推進に向けて」から進めさせていただきます。それでは、教育委員会事務局から説明をお願いいたします。</p>
学校教育課 大浦課長	<p>はい、では失礼いたします。議題1の「コミュニティ・スクール導入推進に向けて」についてご説明をいたします。</p> <p>資料1「コミュニティ・スクール導入推進に向けて」をご覧ください。本資料に掲載の順に説明いたします。資料1ページをご覧ください。まず、コミュニティ・スクールの定義ですけれども、学校運営協議会制度を導入した学校をコミュニティ・スクールと言います。学校運営協議会とは、教育委員会により任命された委員が一定の権限を持って、学校の運営とそのために必要な支援について協議する合議制の機関です。その一定の権限が1ページの青枠囲みに記載している3つの権限になります。</p> <p>1つ目が、「校長が作成する学校運営の基本方針を承認する。」2つ目の権限が、「学校運営について教育委員会または校長に意見を述べることができる。」3つ目の権限が、「教職員の任用に関して教育委員会規則に定める事項について、教育委員会に意見を述べるができる。」というこの3つが主な権限になります。</p> <p>その下にはコミュニティ・スクールの仕組みを図示したものがありますので、後ほど見ていただければと思います。</p> <p>資料の2ページをご覧ください。続いて、コミュニティ・スクール導入の必要性とメリットについてです。まず、なぜコミュニティ・スクールが必要なのかということですが、子どもたちを取り巻く環境や学校が抱える課題の複雑化・多様化に伴い、学校だけでそれらを解決することが困難な時代となっております。それらの解決に向けて、地域と学校が一体となり、社会総がかりでの教育を実現していくことがこれまで以上に求められています。このため、学校と地域が、子どもたちがどのような課題を抱えているのか、どのような子どもを育てていくのかという目標やビジョンを共有し、当事者意識をもって子どもたちを育む体制を整えるため、コミュニティ・スクールが必要とされております。</p>

コミュニティ・スクールの導入に向けての、国、あるいは県の流れについてその下に示しております。

コミュニティ・スクールは、保護者や地域住民が学校運営に参加する仕組みとして、平成16年度に制度化されております。平成29年度に改正されました「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第47条の5に、これからの公立学校は地域と共にある学校へと転換し、地域との連携・協働体制を持続可能なものとしていくことが不可欠なことから、すべての公立学校において、学校運営協議会制度の導入を目指すべく、設置の努力義務が課されました。令和4年3月に、コミュニティ・スクールのあり方等に関する検討会議、最終まとめでは、教育長のリーダーシップのもと、教育委員会が主体的計画的に、全ての学校へのコミュニティ・スクールの導入を加速し、教育委員会による導入計画の作成などが提言されました。これを受けて、国では、市町村における地域と学校の協働活動を支援する補助事業の要件として、コミュニティ・スクールの全校導入に向けた計画の策定などを求めるなど、導入促進に向けた働きかけが行われております。長崎県においても、この方針を受け、学校運営協議会制度の導入に向けた取組が進められております。

対馬市としても、全ての小・中学校への学校運営協議会制度を導入することを目指し、地域と学校の組織的・継続的な連携・協働体制の確立に努めることとしております。

資料3ページには、コミュニティ・スクールを導入するメリットについて、子ども、教職員、保護者、地域の4者の立場からメリットを記載しております。詳細については、資料をご覧くださいと思います。

その下段には、コミュニティ・スクール導入の状況を記載しております。令和4年度のコミュニティ・スクール及び地域学校協働活動実施状況調査結果によりますと、全国では1万5,221校、全国の全学校の42.9パーセントに現在導入をされております。詳細はその下に示しております。長崎県の場合は、この調査の結果では、90校、導入率が17.9パーセントとなっております。全国と比べると非常に低い状況となっております。

長崎県内のコミュニティ・スクール導入状況の詳細については、平成27年度からの分を下の表にまとめております。平成27年度は1市町で1校しか設置がありませんでした。その後、5校、13校、16校、令和元年度には11市町で32校、令和2年度に17市町で4

8校、令和3年度に20市町で70校となっております。最新の分では、この調査は90校となっておりますが、現在92校の設置がされているという状況です。

続いて資料4ページには、コミュニティ・スクール導入に向けた対馬市の方針を記載しております。学校と地域住民や保護者等が、学校に必要な支援等について協議するなどして目標を共有し、力を合わせて学校運営に取り組む学校運営協議会制度の導入により、地域学校協働活動を一層効果的に進め、地域と共にある学校づくりを推進します。そのために、市内全ての公立学校への導入を推進していきます。

その下には、コミュニティ・スクール導入までの流れを、第1回の協議会開催までの例として示しております。教育委員会が取り組む内容、学校が取り組む内容、それから地域が取り組む内容ということで、3つに色分けをして示しております。

資料の5ページ・6ページには、対馬市の学校運営協議会規則を掲載しております。これに基づいて現在、佐須奈小中学校でコミュニティ・スクールの実現をしていただいております。

資料の最後になりますが、7ページには、コミュニティ・スクール導入に向けて、学校がどういうことを進めていけば、ということで、4点示しております。まず、「コミュニティ・スクールへの理解を深める」ということで、学校内での研修であるとか、あるいは学校外の研修を通してコミュニティ・スクール設置の目的や仕組み、運営方法等についての理解を深め、コミュニティ・スクールの導入によって、どのような課題を解決できるか、どのような学校していきたいかといった目標、ビジョンについて検討を進め、次に、「学校の協議会制度の組織作りを行う」ということで、これについては、現在ある学校評議員会制度やPTA等の既存の仕組みを生かすなどして、学校や地域の実情に応じた組織づくりを行う。地域連携を担当する教職員の明確化、それから校内組織の整備を進め、実際に学校運営協議会を何回開催するのか、協議事項等について検討し、次年度の年間計画の中に組み入れるということが学校の取組になります。その他にも、「保護者や地域へのコミュニティ・スクール導入の目的等を周知する」ということで、地域の代表者との意見交換の場を設けて理解協力を得る。保護者等へは、学校便りやPTAの広報誌、あるいは保護者説明会などにより告知し、理解を進める。そして、地域へも広報を行うとともに、地域学校協働活動との連携を目指し、地域学校協働本部やボランティア団体等の関係機関にも周知をする、です。それから準備ができ

	<p>ますと、委員会のほうで、委員を選定するわけですが、これについては、学校から推薦をいただいて、それを基に教育委員会が任命するという形を取っていかうと考えております。そして、その中から会長、副会長を選出してもらい、会議の中心となって、円滑に進行してもらおうということで、コミュニティ・スクールが動き出す、という形になっております。説明は以上です。</p>
進行・梯	<p>ありがとうございました。それでは、「コミュニティ・スクール導入推進に向けて」について意見交換をしたいと思っておりますので、よろしくをお願いします。</p>
佐伯委員	<p>いいですかね、今説明をいただいて、少し対馬市の状況とかはぼんやり分かってきたかなと思うんですけども、今佐須奈小中学校で立ち上がっているというコミュニティ・スクールなのですが、委員さんの構成がどうなっているのか、お分かりだったら教えていただきたいと思っております。地域の人何人入っているとか。この場でわからなければ後日でもいいんですけども。というのが、1つの学校の校区の範囲が広がりすぎてですね、ここに15名と枠が掲げてあるんですけども、1地区から1人ずつ選出したとしても、なかなかちょっと活動はどうなのかなっていうところもあるんですけども。まあ、最低限1地区から1人ずつ出したとして、15名で収まらない学校も出てくるであろうことが今後予想されるんですよ。で、現状として、たとえば私が住んでいる豊玉地区だったら、豊玉小学校に豊玉町内が全て集約されて、美津島の一部地域も豊玉小学校に通ったりすることになると思うんですけども、そうした時に、もう子どもがいない地区の人は基本あんまり出てきたがらないとか、委員の任命はされてもあまり関係ないんだってというような雰囲気、今もすでにもうあると思うんですよ。小学校にしても中学校にしても、それはもう教員の方々もだし、会議にもよく出るんですけど、そういう時にひしひしと感ずるのでですね。</p> <p>佐須奈地区がどれぐらいの範囲で、委員さんを集めて構成してやっていかうとされてるのかというのは、非常にモデルケースになると思うんですけども。</p> <p>そこだけで、人数の制限とかを考えてしまうと、なかなかうまくいかない、スケール感がですね。ただ多すぎてもううまくいかないってところですね。そこは柔軟に探っていく必要があるんじゃないかなと感じています。</p>
進行・梯	<p>中島教育長をお願いします。</p>

中島教育長	はい、佐須奈小中学校の委員の構成についてですけれども、具体的な個人名は申し上げられませんけれども、構成委員として上がっているのが、学校評議委員の方、それと保護者の代表の方、地域住民の代表、これが今、佐伯委員さんが言われた、どの範囲まで入っていただくかというのが難しいと思いますが。あと、もやいの会の皆さんですね。それと、育成会、学校区にお住まいの民生委員の方、MITの方、老人会の方、などがその構成員としてお名前が上がっているようです。
比田勝市長	私からひとつ、よろしいでしょうか。 今現在ですね、佐須奈小中学校がコミュニティ・スクールを導入されてあるということでございますけれども、具体的に言えば、ここにコミュニティ・スクールを導入する時のメリットっていうのもありますけれども、佐須奈小中学校においては、どのようなその効果が出るのか。メリットがですね。そこらへんがもし分かれば、教えていただきたいなと思っております。
進行・梯	はい、大浦課長お願いします。
学校教育課 大浦課長	佐須奈はですね、令和2年度から開始しております。ただ令和2年度がコロナ禍であったということで、初回の会議が非常に遅くなりまして、通常であれば5月6月に開催する会議が1月まで開催されませんでした。 ですので、1年目についてはあまり大きな活動ができなかったということですが、昨年度はですね、現在校区となっております佐護の地区に看板の設置をされたり、嘉代子桜の植樹をされたりとかですね。そういったことを地域の方とともに佐須奈の子どもたちが取組をしております。 元からこの佐須奈地区はそういった、地域の方がよく学校に協力してくださる地域であったので、そのつながりを生かしているいろいろな学校での取組とかと抱き合わせながら活動していただいております。そういった意味では、既存の組織をうまく活用された良い形で進めているのかなと私は感じております。
比田勝市長	確かに嘉代子桜の植樹の件は、新聞にもなんか載ってましたよね。 はい、分かりました。
進行・梯	一宮委員さん。
一宮委員	はい、関連で。私もこのコミュニティ・スクールが議題になるということで佐須奈の小中学校の校長先生と色々、具体的にどういうふうな活動をしてらっしゃるんですかとか、どういうふうなものですかと

いうのをいろいろとお話させていただいたんですけれど、非常にうまくいってる例だと思うんですね。組織に対する地域コーディネーターの方も、人材とか、あるいは、地域の協力を得るための会長さんみたいな人選とか、いろんな部分が、非常にそして共通の目標で、育てたい子どもの姿云々につきましても、より練られて、コミュニティ・スクールの理想の形が佐須奈では実現できてるのかなっていうのを、非常にお話を聞く中で感じました。

どういうメリットがありますかってお話を聞くと、地域の方に挨拶をよくするように子どもたちがなると、お世話になってるから。

校長先生の話では、継続するためにも無理をしないことと、まずは活動を中心に取り組んでいると、自分のところでは。そこを決して無理をしないという形でされてましたけど。

先ほど教育長からお話がありましたもやいの会とか、MITの方との、そういう尽力っていうのはやはり大きいのかなと思います。

子どもたちが挨拶するようになったということ、もう一個は、コミュニティ・スクールというのは、お互いの協力の下にあるというんですけれど、学校側も地域の方にいろんなことが頼みやすくなったと。そして、総合的な学習のいろいろな講師をお願いしたりする場合も、広がりが出るということで、お話をして。非常にうまくいっている例だなと思って。15名の構成人員もいろんなところを網羅していらっしゃるんですけど、これは非常に素晴らしいと。ぜひコミュニティ・スクールを広げたら良いなっていう発想にはなるんですけども。

じゃあ、いざ、課題はございませんかってお尋ねしたら、やはりその地域の協力体制とか、そういう人材とか。今、自分のところはそれでうまくいっているけれど、果たしてそのあたりがどうなのかっていうところを、やはり慎重に動く必要があるんじゃないかっていう話でたんですね。

で、私もやはりそこが。そういう地域コーディネーターなり、会長さんなり、地域と学校がある程度平等のラインで動けるようなところだと、非常に素晴らしいものだと思うんですけど、やはり閉校したり、中には対馬の場合はあの閉校して校区が広がったり。今は小さくコンパクトにまとまっていてそれぞれの地域性があるので。

コミュニティ・スクールをどの範囲内で、要するに校区であるのか、あるいはどうするのかっていうことも含めましてですね。そのあたりのビジョンというか、そこがちょっとよく見えてない部分が。

	<p>学校別に十何校あるから、全部そこをコミュニティ・スクールとしてするのかですね。そのあたりが検討する必要があるのかな。</p> <p>地域と学校の活性化というのが目標だと思うのですが、より子どもたちを育てる。でも、そのあたりが課題をしっかりと掘り下げて、進んでいかないといけないのではないかな、というその思いがあるものですから。ちょっとまとまらないのですが、以上です。</p>
中島教育長	<p>はい。この学校運営協議会というのはですね、複数の学校で1つの協議会を作っても良いということになってるんですね。佐須奈は、小学校と中学校が、実は2校で1つの協議会というカウントのされ方をしています。ですから、今後対馬市が進めていく際にも小学校と中学校の連携という意味からも、たとえば同じ校区内に、小学校と中学校と、別に運営協議会があるとすると、役員等の重複も考えられますので、基本的には「同じ中学校区等で」を基本に、学校運営協議会を整備していくという方針でいったらどうかと私は考えております。</p>
早田委員	<p>いいですか。</p> <p>長崎県の設置率がすごく低いのはですね、長崎県は最初、乗り気じゃなかったんですよ。乗り気じゃなかったんですよ。だから、最初は悠長に構えてたはずなんですけれども。ところがだんだん全国的に増えてきて、そして、努力義務になってから慌ててこういう状況。これは本当、これが実態だろうと思うんです。</p> <p>で、この運営協議会自体も、以前から学校評議員会、または学校支援会議とかいうものがあって、地域と一体になって、学校運営をしていこうっていうのが、もう以前からずっと流れとしてあるわけです。それがあつたから長崎県はそれで代行できるんじゃないかと考えてたみたいですよ。ところがもう学校運営協議会を設置しなくちゃいけないということで、このコミュニティ・スクールの設置に完全にシフトしてるという形で、ちょっと私に言わせたら本末転倒かなっていう感じがしてならないんですよ。</p> <p>だから、学校側も教育委員会事務局も大変だし、学校側も負担になってきてるんじゃないかな、と。それがちょっと心配。</p> <p>何故ならば、もう皆さんも分かっていると思うんですけど、地域にたくさん人材がいれば良いですよ。そしたら、すぐそういう組織を作って、そして若い力があればですね。どんどんどんどん運営も、活動も活発になっていくだろうと思うんですが、その逆です。このコミュニティ・スクールを作るにあたってはですね、かなりハードルが高いだろうと考えているんです。</p>

	<p>で、さっき一宮委員が言われたように、こう無理せずにやっていくと校長先生が言ってあったということですが、そのとおりだなと思うんですね、多分、無理したらですね、せっかく出来上がっても、空中分解っていうか、続かない。それだったら何のために作ったのかっていうことになるので、コミュニティ・スクール導入はもう仕方がないと考えて、導入するのは良いんですけど、慌てないでゆっくりと地域にも学校にも負担がかからないスピードと、また内容と。対馬ならではのコミュニティ・スクールの形があってもいいんじゃないかなという気はとてします。</p> <p>そうじゃないと、以前私、佐世保で地域に協力して、地域全体で、中学校校区全部が取り組む活動っていうか、研究指定があったんですが、その時に地域に話しに行った時に言われた言葉が、すごくグサッと、今でも残ってる言葉があるんです。地域の人が、説明した後、「学校は困った時だけ地域に頼みに来る。」というその言葉がすごく痛いんです。それは、どうしても学校としては、まあ学校もトップダウンで来てるのでお願いしなくちゃいけないんですけど、なんていうか、地域は頼まれて、学校のためだから渋々やっているっていう感があるんですよ。だから、地域のことも考えて、本当は、地域と学校がwin-winの関係のコミュニティ・スクールであってほしいんですけど、なかなかそれも難しい。</p> <p>なので、地域のことも考えて、ハードなものにならないように。佐須奈は結構人材がおられるからなんとかなってるところがあるんですけど、小さい学校は大変だぞということは、こう皆さん周知していただいて、対馬なりにゆっくりやっていた方がいいんじゃないかなと思っています。以上です。</p>
進行・梯	教育長お願いします。
中島教育長	<p>9月の議会でしたかね、9月の市議会で、まさに今、早田委員さんがおっしゃったことも答弁したんですけども、長崎県では、元々、「地域と共にある学校づくり」というのを推進してきた経緯がありまして、今日本で1番設置率が低いのが福井県、長崎県なんですね。これを考えると、おそらくこの県は両方とも地域と元々密着した学校づくりができていた県ではないかなと思います。どちらかといえば。</p> <p>逆に都市圏では、地域とのつながりが薄かったものですから、こういう学校づくりが必要だよということで、急速にコミュニティ・スクールの導入が進んだという背景がある可能性があります。とはいえ、やはり、これを私たちは進める必要性も感じておりまして。</p>

	<p>コミュニティ・スクールというどうしても、先ほど早田委員さんがおっしゃったとおり、学校をどうにかしようという感じですが、これは精神的には、なんですかね、背景には「コミュニティ&スクール」とか、「コミュニティwithスクール」とか、そういう言い方のほうが本当は適切なのかなと。</p> <p>要するに、学校を主人公に考えるんじゃなくて、学校と地域が共に、地域の活性化のために頑張っていきたいと、そういう捉え方にこのコミュニティ・スクールを今後考えていく必要があるのかなと思います。</p> <p>それで、今おっしゃったとおり、急速に、いっぺんに来年からしますよとか、再来年から一斉にしますよでは難しいので、年次段階的ですね、2年に2校程度。1年目は説明準備期間、そして次の年に導入、そしてそこが終わったら、PDCAサイクルで評価や改善を図りながら、次、また次の校区において、説明。で、準備して、またコミュニティ・スクールにするというような段階で進んでいったらどうかと考えています。</p> <p>で、学校教育課のほうで、今その粗々の計画を立てておりますので、配っていただけますか。まだ案の段階です。仮に学校名等も入れておりますけれども、これはまだ案でこのとおりとは限りません。簡単に課長から説明いただければと思います。</p>
<p>学校教育課 大浦課長</p>	<p>先ほど説明したとおり、導入前の1年間を導入準備というふうに考えております。</p> <p>委員会のほうからそれぞれの学校等に出向いて、保護者、あるいは地域に対して既存の組織の中での説明等をしていこうと思っておりますので、基本的には、導入の場合、導入準備の期間を設けてというふうに考えております。</p> <p>先ほど教育長からもありましたように、基本的には中学校区に1校、1つのコミュニティ・スクール、学校運営協議会を設置したいと考えております。それで、現在、上県上対馬地区には佐須奈がありますので、それ以外の、まず中地区ですね、豊玉、峰。それから美津島、巖原のどちらかに先に作りたいと考えております。予定ですが、来年度5年度中に導入準備を進めていただくのが●●小学校と中学校。1つの中学校に1つの小学校から来るところから始めるほうが始めやすいかなということで、基本的に考えております。</p> <p>そして、●●中学校と●●小学校ですね。5年度に準備をしていただいて6年度からの導入開始。それから同じように●●小学校と中学</p>

	<p>校ですけれども、6年度準備、7年度からの開始と考えています。</p> <p>それから、上県上対馬のほうでは、●●、それから●●。●●小学校中学校の準備導入をと考えております。</p> <p>同じような考え方で、一番校区が、いろんなところにまたがっている、あるいは小学校数が多い、●●とか●●中学校についてはですね、できるだけ遅いような形で進めていこうと思います。今後、小学校の統廃合等もあるかと思しますので、そのへんの動きも見ながらということで、1つの中学校に多くの小学校等が関わっている場合等についてはできれば遅くと考えております。以上です。</p>
中島教育長	<p>はい、ありがとうございました。これは、導入をするとすれば、このようなスケジュールでどうかなという、まさに案の案です。はい、以上です。</p>
比田勝市長	<p>あの、ちょっと私、いいでしょうかね。私もこのコミュニティ・スクール関係を進めることについては、別に異議無いのですけれども、ただ、ここに示されております運営協議会における3つの権限の中で、特に、校長が作成する学校運営の基本方針を承認して、それに対して意見を述べるができるということになっておりますけれども、これは考え方によるかと思っておりますけれども、前向きな人は良いんですが、そうでない場合は、学校運営に影響を与えないのか危惧するところですよ。</p> <p>それと、もう1つ心配なのが、3番目の教職員の任用に関して、ということで確かに個人を特定しない一般的な意見に限るというようなことになっておりますけれども、なんかここらへんで、任用関係までかかったときに、何か支障がでるおそれはないか、ということで、ちょっとお聞かせください。</p>
学校教育課 大浦課長	<p>私からよろしいですか。まずですね、委員の任命については、教育委員会のほうで任命するようになっております。それで事前に学校のほうで、その委員さんに承諾を取っていただくようにしておりますので、それを受けて教育委員会のほうも任命をするということにしておりますので、その承諾等の内容についてはしっかり精査をして、最終的には任命という形で進めていくので、心配する点は無きにしもあらず、ですけれども、カバーできるかなと考えております。</p> <p>それから先ほどありました権限についてですけれども、権限の3つ目についてはですね、これは、どこの市町でもこの任用の部分、ここは人事に関わってもらったら困るんじゃないかというような話があるんですけれども、あくまでも、「こういったことができる先生が来</p>

	<p>ると良いですね。」という程度の内容であってですね、この先生をくださいとか、この人はダメですとかっていう内容についての意見を求めるわけではありません。</p> <p>そして、もしこのことについては触れてほしくないということであれば、対馬市の運営協議会の規則の中に、意見をいただく内容を明記することもできますので、そういったことでこの部分をきちんと制御していけば、そういった心配も減ってくるのかな、と考えてはおります。</p>
比田勝市長	はい、分かりました。
進行・梯	一宮委員さん、お願いします。
一宮委員	<p>すみません、関連です。今、市長さんがおっしゃった3番目のこれについて私も非常に気にしてたところなんですけれど、今お答えをいただいて分かりましたけど。</p> <p>コミュニティ・スクールは東京都のほうがずっと早い頃から実施してあって、自分が現職時代に、非常に校長先生たちが困っていた分も3番目で、教職員の任用に対して意見を述べるができるっていうのがあるもんだから、結構、校長に対して、「こういうことができる先生がいらっしゃったら良いですね。」では留まらなくて、いろんな意見も、非常に困惑してると、非常にここが困るっていうことをおっしゃっていた先生方がいっぱいいらっしゃったんですね、会議の時に。それで、できたら、今、課長さんがおっしゃったように、もしそのあたりがあれば、市の規則で云々っていうそのことを入れられたほうが、私も良いのかなと。たとえばいろんな区長さんなり、老人クラブの会長さんなり、充て職というか、そういう方を任命する可能性もごさいますよね。そしたら、そこには色んなお考えを持ちの方がしてらっしゃいますので、やはりそのあたりは1個入れられたほうが、より建設的な意見を求めるなら、そちらが良いのかなっていう気はいたします。すみません、以上です。</p>
中島教育長	<p>はい、関連ですけど、学校教育課から出ている資料の5ページですね。まず、この協議会の委員の選出にあたっては、校長先生の推薦の基に教育委員会が任命ということになりますので、校長先生がこの人にだったらいろんな意見を言っていたきたいという人を選んでいただいた上で選ぶ、教育委員会が任命する、という手順ですので、市長さんが心配されるようなことは極力起こらないように気をつける必要があるかなと思います。</p> <p>それと人事に関することですが、このコミュニティ・スクー</p>

	<p>ルが急速に、先ほど別の資料にありますけれども、数が増えていった背景に、最初、もう少し人事に関して強く言えるようなことがうたってあったんですね。ところが、進まない背景にこれがあるということで、これについては、「教育委員会規則に定める事項について」という但し書きがついて、意見を述べるができる。しかも、この項目については、規則の中で、もううたわないことができるというふうに変ったんですね。ですから、これについては、必ずしも規則の中に取り入れる必要はないかな、とも思います。以上です。</p>
進行・梯	齋藤委員さん。
齋藤委員	<p>はい。私のしてきた経験からちょっと話そうかなと思ったんですけど、私、地域おこしをちょっと10年前ぐらいしてた人間なんですけど、その時は、全くコミュニティ・スクールとかこういうのはなくて、結果、今思い出してみると、こういったコミュニティ・スクールみたいなことをしてたなっていうのをちょっと話したいんですけど。とんちゃん部隊っていうグループがありまして、その時、私がリーダーをしていて、地域おこしを目標にして頑張ってきたんですけど、何年かして小学校のほうから、子どもたちと一緒に何かをしてくれないかっていうことで、その時、●●先生がちょうど比田勝小学校にいて、とても熱い先生で。それでいろいろ、子どもたちと一緒に活動していたんですけど、やはりそういう活動をしてると、子どもたちが地域の文化、食べ物に興味を持ったり、地域を誇りに思ってくれたりですね。あと結果、学力も伸びたっていうふうに、先生のほうから聞きまして、それが大変嬉しくてですね。で、メリットがすごくあるなって思ったんですけど、僕の個人の意見としては、地域の、その時とんちゃん部隊っていうしっかりしたグループがいて、●●先生という熱い先生がいて、すごい合致してうまくいったんですね。それで●●先生が転勤されて、ちょっともう子どもたちの関係がなくなってきたんですけど。</p> <p>僕が思うに、やはり地域の熱い人と、学校にもタイミングよく熱い先生がいたりして、まあそこで合致すると思うんですけど、その熱さを持った人がなかなか揃わないっていうのは、今、現状だと思うんです。やはり、継続の難しさっていうのを僕は体験したかなと思ってですね。</p> <p>地域の人がそれなりで、子どもたちはもちろん挨拶もするようになってくれたしですね。全国にあの時は発信したのすごい誇りに思ってくれたと思うんですけど。なんか、地域のそういう熱い人とかです</p>

	<p>ね、そういうのを選ぶのがやはり結構難しいのかなと思って。で、デメリットみたいなのは、やはりそっちに、皆さん、仕事ももちろんしてらっしゃいますし。ま、時間とか労力が取られちゃうっていうのを僕は体験してきたので。</p> <p>ちょっと難しい部分もあるけれど、やってみる価値はもちろんあるし、地域の人が結構大半を占めるのかなって僕は思ってます。はい。</p>
佐伯委員	<p>関連していいですか。</p>
進行・梯	<p>佐伯委員さんお願いします。</p>
佐伯委員	<p>もやいの会の日高さんともよく、私、やり取りをさせていただいて。対馬市民ボランティア連絡協議会という会の中でよくお会いするんですけども、非常にしっかりした組織立てなんですよね。その代表の方なり事務の方なりが参加されると、やはり何十人分のパワフルな会になるっていうか、動員かければすぐ何十人いきますよっていうような状況になるので、とんちゃん部隊もおそらくそういうような役割を果たされてあった部分もあるのかなっていうところですね。</p> <p>地域の教育委員の研修会が先日長崎であったんですが、その中で地域総がかりで教育にも携わってもらい、地域づくりもしていこうっていうような組織立てを今後作っていかないといけないっていうことを、会の中で強く訴えられてたんですね。それで、その核になる組織がある、たとえば、豊玉だったら、多少ちょっと下火にはなりつつあるんですが、仁位サポート会っていう組織があつてですね。数十人単位で、手弁当でずっと環境美化とかをなさって、小学校、中学校にも非常に協力的になってらっしゃるっていうような組織があつたりとか。あと、佐須とかだと響心会さんとかもそういうような活動をされてらっしゃるのかなと想像はしてるんですが、あまりちょっと話はしたことないんですけど。なので、そういったところを頼るっていうのも、1つ大きなメリットだし、今後のことを考えると、そういった組織も、教育委員会外の話なんですけどね。作ったり育てたりしていかないと、なかなか結果に結びつかないのかなと思ったりするので。</p> <p>市長がせっかくいらっしゃるので、そういったところにも力を入れていただいているのをよく理解してるつもりですので、また、今後そういった動きがあつた時に、また加速するような手立てを講じていただければ、今この話がさらに良い結果になるのではないかなと思います。</p>

進行・梯	他にご意見ございませんでしょうか。
一宮委員	はい。
進行・梯	一宮委員さんお願いします。
一宮委員	<p>一宮です。先ほど課長様から資料をいただいたんですね。そこで思ったんですけど、準備期間があって導入開始ということで、実際、先ほどから話題になっている佐須奈小中学校のコミュニティ・スクールが非常に成果なり効果を出してるということなので、もしあれだったら、3月か4月かの定例校長会等で、佐須奈小中学校の校長先生の、実践内容の生の声を説明というんですかね、資料とか。そういう生の声で「今自分たちはこういう形でしております。」という感じを聞くと、私はその1人だったんですけど。そういうふうな佐須奈小中学校の事例を聞いて、「では自分の学校では、自分の校区ではどういふところが取り入れられてどういふところに課題があるかな」といふのが、各学校の校長先生方が見つかるのじゃないかなと思うんですね。それから、「じゃあこうしてこうして動けるな」といふ形で学校の経営者である校長や教頭が話をしながら、「私たちの校区はこういふふうに広げていこう」とか、「こういふところは課題だからもっとこうしよう」といふようなことを、導入準備段階のもう一回準備にされたらどうかなって思ったんですね。</p> <p>そうすると、どうしても進めるとなったら1つの手がかりになるのかなという気がいたします。</p> <p>どうしても、皆さんやはり今までやってることが頭の中にあるので、なかなか、何で学校支援会議じゃダメなのか、何で今までの学校評議員会でダメなのか。県はそこまでいってたじゃない、それで自分たちがやってきたんだっていう気持ちがあるんですね。現在の現職にしても、私自身もそうでしたから。</p> <p>それを払拭する意味では、この佐須奈小中学校の事例をぜひ、生の声を聞かれると、より新鮮になって、「あ、そうなのか、そういうメリットがあったら、地域と学校がどちらも活性化できる」と。それは、皆さん望むところですから、どうかなと思いました。一応意見としてです。はい、以上です。</p>
進行・梯	教育委員会から何かありますか。
学校教育課 大浦課長	はい、その件に関してはですね、実はもう令和2年度に県のほうからコーディネーターさんが来られて、管理職、学校担当者を対象に研修会を実施されております。で、そういった中でこれまでの、県のほ

	<p>うからも来ていただいて、県の動きについても説明をしていただいておまして、これまで県は学校支援会議でしていたけれども、というようなことで、私が説明した内容等についても、なぜこのコミュニティ・スクールが今後必要なのかについてもそういった研修等は設けられております。</p> <p>で、実際に、今度は実践レベルでの話であれば、そういった今言われたようなお話を聞くと、より身近に感じられることもあるかな、とは思いますが。</p> <p>概要的なものについては、各学校から管理職1名と担当教員1名が参加して会が行われています。これは生涯学習課主催の研修会実施をされています。私も担当させていただいておりました。</p>
一宮委員	<p>すいません、それはもうもちろんです。それがあって初めて動きになるので、それが流れとしてあるから、より実践的な、佐須奈の校長先生なり担当の先生なりか分からないのですが、佐須奈の学校の例を、より実践的に、こうして3年間やってみましたよってこうですよっていう形の、メリット、デメリットも含めて説明していただくのがよりいいのかなって、すごく身近に感じるのかなっていう。概論なり理論は、皆さん分かると思うんですけども、実際、活動になるとなかなか難しいんですよ。</p> <p>そして、中学校区の広いところは最後に、後にしてらっしゃるので、まずは1小1中で動いてみると、すごく素晴らしい計画だなと思うんですけど。</p> <p>まず何かしてみると良いかなと思ひまして。1つの提案です。すみません、以上です。</p>
進行・梯	<p>ありがとうございます。他に何か意見等はございませんでしょうか。今50分くらい経過をしておりますが、休憩等はよろしいですか。</p>
会場	<p>大丈夫ですよ。</p>
進行・梯	<p>それでは、次の議題に移らせていただきます。議題の2つ目、島っこ留学推進事業について、教育委員会事務局から説明をお願いします。</p>
教育総務課 扇課長	<p>失礼いたします。島っこ留学推進事業について、教育総務課から説明させていただきます。資料の2になります。まず、資料の6ページをお願いいたします。</p> <p>島っこ留学推進事業につきましては、島っこ留学推進協議会を主体といたしまして、運営されております。こちらには島っこ留学制度の</p>

概要につきまして記載しております。まず本事業の目的ですが、対馬特有の自然文化、国際交流など豊かな学びと体験活動などを願う島外の方を対象に、市内の小中学校に受け入れ、学校の活性化及び教育の振興等を図ることを目的に実施しております。また、留学制度の事業効果といたしまして、留学生及び地元の子ども、受け入れ校、そして地域における効果について、それぞれ記載しております。資料の枚数が結構ありますので概略を説明させていただきます。

次に2ページ目をお願いいたします。2ページから3ページ目にかけて、対馬市島っこ留学推進協議会規約を掲載しております。一応参考までにつけておりますので、内容につきましては後ほどご確認いただければと思います。

次に4ページをお願いいたします。4ページには、推進協議会の委員名簿を掲載しております。ご覧のとりの構成員となっておりますが、協議会の会長につきましては、対馬市校長会会長の糸瀬校長先生をお願いしております。事務局は教育総務課で受け持っております。

次に5ページをお願いいたします。5ページからにつきましては、本事業が開始されました、平成27年度から令和3年度までの事業計画について記載しております。まず5ページの27年度でございますが、27年度に推進協議会を立ち上げ、先進地視察、また、補助金の交付要綱、里親に関する基準等の整備を行い、初めての留学生の募集を行いました。結果的には2件の問い合わせはありましたけれども、応募はございませんでした。次に28年度でございますが、平成28年度におきましては、新たな試みといたしまして体験留学を実施しております。その体験留学には5組10名の参加がありましたけれども、結果的に受け入れにはつながっておりません。

次に資料の7ページをお願いいたします。平成29年度では、さらに専用のホームページやFacebook、また福岡市内でのチラシポスティングなどを行いまして、募集活動の強化を図っております。結果といたしまして、9月から1名、翌年4月からの留学生として2名を受け入れることとなりました。

次に平成30年度ですが、平成30年度におきましても、体験留学、事前視察等を行いまして、年度途中の9月から2名、翌年4月から7名の受け入れとなっております。

次に令和元年度でございますが、令和元年度では9組の事前視察を受け入れまして、翌年4月から6名の留学生の受け入れにつながっております。令和2年度は7組の事前視察を受け入れて、令和3年4月

から6名の留学生を受け入れることとなっております。

今年度、令和4年4月から1名の留学生を受け入れておりますが、令和3年度中に6組の事前視察がありまして、その中から1名の留学生を本年4月から佐須奈中学校に受け入れております。事業経過については以上でございます。

次に資料の12ページをお願いいたします。12ページにつきましては、令和3年度の島っこ留学推進事業の収支決算書を掲載しております。予算の執行について収入、支出、どのような内容なのか参考としてご覧いただければと思います、資料として掲載しております。説明は省略させていただきたいと思いますが、1点のみ、収入の留学生負担金につきまして、令和3年度決算書では1か月あたり留学生の本人負担は3万円となっておりますけれども、これにつきまして、令和4年度からは見直しまして、留学生の負担金を1か月あたり4万円としております。それに伴い里親の委託料を令和4年度から留学生1人当たり1か月8万円と変更しております。

続いて13ページの資料になりますけれども、13ページの資料には島っこ留学生の一覧をつけております。この一覧を見ていただければ、留学生の年度別の受け入れ状況や、それぞれの留学生が何年間継続して留学していたか、また留学生の受け入れ校、里親の状況などをご確認いただけたと思います。なお、本表の備考欄に契約解除とございますが、この契約解除というのは、年度途中で留学を辞められた方々の分となります。

次に資料の14ページからは、令和4年度、今年度における事業の経過状況を掲載しております。現在留学生の申込期限を12月28日、来週までですけれども、期限を決めておりまして、本日までに4組の事前視察を受け入れ、3名からの申込を現在いただいております。また、今年度の受け入れ状況でございますが、中学校2年生の女子生徒1名を佐須奈中学校に受け入れております。

15ページからは、今年度の里親募集、留学生の募集要項等を資料として掲載しておりますので、後ほどご覧いただければと思います。なお、今後の予定といたしましては12月28日で申込受付を終了いたしまして、2月7日に推進協議会を開催し、来年4月から受け入れる留学生を決定する予定としております。受け入れ予定校は佐須奈小中学校で、受入人数は2名の予定でございます。

次に資料の19ページでございますが、19ページ20ページには参考資料といたしまして、島留学のタイプ及び県内各市町の島留学に

	<p>ついて状況を掲載しております。島留学のタイプにつきましては、里親型、合宿型、親子型、孫もどし型の4つのタイプを挙げておりますが、現在対馬市では、この中の①の里親型で実施しております。</p> <p>また、県内各市町の状況を見ていただくと分かりますが、各市町、2つから3つのタイプで受け入れている状況でありますので、対馬市におきましても、今後の受入体制や受入校の選定条件などを見直す必要があるかと考えております。</p> <p>今年度開催の推進協議会におきましても、同様のご意見をいただいておりますので、次年度の募集を行う前までには、このあたりの整備を行っていきたいと思っております。簡単ではございましたが、島っこ留学推進事業に係る説明は以上でございます。</p>
進行・梯	<p>ありがとうございました。それでは島っこ留学推進事業について意見交換をしたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。</p>
比田勝市長	<p>教育長、私からお伺いします。この島っこ留学につきましては、私自身も人口減少に歯止めがかからない中で、本当に有効な施策だと思っております。</p> <p>参考までにですね、今、赤米の関係で鹿児島県の種子島の南種子町と交流をしておりますけれど、南種子町は宇宙留学ということで留学生を募集しているそうですけれども、100名の定員に対してかなりの人数の募集があつてということを知っております。それで、どういう形で里親を探してあるのかっていう話をちょっと聞いたら、里親というよりもですね、あそこは町有地に鹿児島の大手の住宅メーカーと提携して、そこに家を建ててもらって、その家に有料で住んでもらうというようなことでやっておりますということなんですね。</p> <p>それで、結構な人数がいるということなんですけれども、我々もちょっとそこらへんは、急にそんなことを言われると難しいことですから、今後勉強しながら研修する必要もあろうかと思っております。</p> <p>それと、それは先に置いといてもですね、今はある程度、島っこ留学の校区が里親の方によって限定されていますね。どっちかと言ったらですね。まあ、それで、島っこ留学をまず学校を限定することなく募集してみたらどうかなどは思ってるんですけど、このことに関してはいかがでしょうかね。皆さんのご意見というのは。</p>
佐伯委員	<p>よろしいですかね。</p>
進行・梯	<p>はい、佐伯委員さんお願いします。</p>
佐伯委員	<p>はい、何度も何度もやはりこの問題は毎年巡ってくるのでですね。委員会の中でも話があるんですが、距離的な問題っていうのがいつも</p>

	<p>話題になるってことですね。</p> <p>それで、市長がおっしゃるように、先ほどの南種子の話もそうでしょうけれど、やはり、どこかしら対策を打たないといけないでしょうけれど、どうしても対馬の場合、何か所か拠点が必要になるってところですね。そこで金額もおそらく向こうとはちょっと比較にならないような形になるのかなってところですね。どの学校でも良いような形になるっていうのは、もう私たち教育委員会としては、もうみんなが賛成するようなことになると思うんですけども、あとは費用の面とかですね。そのあたりが大きくネックになるのかな。移動とか、費用とか。バスを使うなりするとかですね。そういったこととかも必要になるのかなと思います。どうしても不便なところに複式が発生して、そこを解消しようっていうような枠組みで私たちは今動いてるはずなので、市長がおっしゃった考えというのはあまりちょっと、今までやってないようなことであろうかと思います。</p>
比田勝市長	いや、もうあまり複式ばかりに限定しなくてもいいんじゃないかと私思ってるんです。
佐伯委員	それだったら、また考え方が全然変わってくるんですけど、はい。
比田勝市長	あまり限定しすぎるから、なかなか島っこ留学で希望される方も他に行かれるんじゃないかなと。
佐伯委員	そうですね。
比田勝市長	複式は複式でもうしょうがないので。
佐伯委員	そうですね。
比田勝市長	私が個人的に思うだけで、それはもうどういった考え方がいいのか私は分かりませんよ。そこはですね。皆さんのご意見をお聞きせんばいかなとは思ってるんですけど。
佐伯委員	いやいや、でも、今おっしゃっていただいた内容でかなり想像力が膨らんでですね。雞知にそういったことができるのか、厳原にできるのか、豊玉に作れるのか。今までそういった発想自体がもう方向性としてないような考え方なのでですね。そういった方向でもし考える機会が与えられるなら、大きく進展する可能性をはらんでるんじゃないかと思います。
早田委員	いいですか。南種子町ですかね、宇宙留学っていう、なんか、キャッチフレーズが良いですね。飛びつくですよ、宇宙が好きだとか、天文学が好きだとか、そういう子たちは全国にごまんという。

	<p>なので、受け入れる素地があるっていうか、なんていうかハード面でも受け入れるところ、受け入れられる状況だから良いんじゃないかなと思うんですけど、さて、対馬で、キャッチフレーズを何にするか。対馬に来たら何ができるのか、対馬で何をすることかというところが難しいんじゃないかなと思ってるんですよね。今回令和4年度で体験留学した組が4組あって、3組が来年度申し込んでいただけっていう。</p>
教育総務課 扇課長	<p>体験留学ではなくて事前視察ですね。</p>
早田委員	<p>以前来た子たちで、ちょっとやはり不登校傾向の子たちが来て、結局はちょっとポシャったという例があったと思うんですけど。難しいんですけど、不登校の子たちを対象にしたりすると、とてもこう難しい、運営っていうか、それを島っこ留学させようというのはただでさえ難しい。普通の元気の良い子どもたちでさえ難しいだろうっていうところを、そういう子たちをターゲットにすると、大変な運営の難しさがあるだろうなど。で、里親としても、受け入れる側はもっと大変だということですね。</p> <p>だから、さっき言いましたように、何を対馬市に来て、この島に来て、何ができるのかっていうのがちょっと見えないと増えないんじゃないかなって思います。日本に島はいくらでもあるから島っこ留学しようと思ったらどこでもできるわけです。特に対馬は遠いですから、それでさえちょっとハンディキャップがある。</p> <p>だから、対馬で何ができるのか、対馬でどういうことができるのかっていうことをもう少し絞って募集をかけていかないと難しいのかなという気がしています。</p> <p>対馬の売りって何だろうって思ったら、やはり国境の島だ、韓国に近いだっていうところかなと。他ではできないんですね、これだと。対馬高校の国際交流科が、どんどん良くなってきてるのは、やはりそこじゃないかなと思うんですね。</p> <p>対馬しかできないっていうところがあって、活性化してるのはそういうことだろうと思うんですけども。</p> <p>やはりそのへんにちょっと道があるのかなっていう気がします。はい、以上です。</p>
進行・梯	<p>一宮委員さん。</p>
一宮委員	<p>はい、時間がないので。はい、1つの例でですね。びっくりしたのは、種子島の宇宙留学で実は小学4年生の時に行った生徒さんがいる</p>

	<p> んですね、1年間。その生徒さんが、自分が対馬高校で勤務させていただいた国際交流科にいた時に、島のそこが良くて、福岡だったかな、じゃあもう一回、高校生になった時に、対馬高校の離島留学の制度があって韓国語を、別に韓国は得意じゃなかったわけですけども、そういうのがあるから、島に行って3年間国際交流科に来て韓国語を勉強して、3年間して卒業したっていう。今たまたま話がつながったんですけど、そういう話があります。 </p> <p> ただ、自分が経験したものは今早田委員さんもおっしゃったけれど、高校の場合は離島留学制度で韓国語が学べるというのがあるんですよ。そこが。でも、対馬市が今してる島っこ留学は、じゃあ何なのって言ったところが弱い部分があって、そこになかなか人ができないという部分があるので、私は今、参考資料で島留学のいろんな事例があって、なるほど、他のところは、高校は成功してないけれど、中学はこの義務教育の方は成功してる所もありますし。だから、もう少しそのあたりを、時間が今日ないので、聞けないけれど、話を掘り下げると時間がないので。壱岐とかがすごくこうしたりしてる部分もあるし、もうちょっと島っこ留学の、対馬市の場合はそもそもが複式学級のそれということで始めてるわけだから、スタートが。 </p> <p> でも、そうじゃなくて、人口減少に歯止めをかけたいとかいう発展的な市長さんのお考えになると、またそのスタートが違うので。じゃあそのためには他にいろんなニーズがあって、いろんな成功してる場合。それで対馬の場合は孫戻し型が合うかもしれないとか書かれてたりしている。で、もう少しこう練って、本当にどういう形で必要なのかっていうことしていきながら進めたほうが島っこ留学はいいのかなっていう気がします。 </p> <p> 韓国語を学びたいから対馬高校の国際文化交流科に来てるんですよ。まあいろんな理由がある子たちがたくさんいますけれどね。でも、壱岐じゃない五島じゃない、対馬に来たい子どもは、じゃあどんな何を求めて対馬に島っこ留学させるのかっていう、そこをもっとしっかり企画する方が持つておかないとなかなか用意できない。ちょっと今日は方向性が変わったので、あれ、と思って。 </p>
佐伯委員	<p> ちょっと閉塞感が漂ってましたからね。 </p>
早田委員	<p> 今、複式のところに子どもが来たとしても1人か2人ですよ。それじゃ、複式解消はならないんですよ、どっと来てもらわないと。どっと集めることがちょっと難しいからですね。市長さんが言われるように、もうちょっと都市部っていうか、あっちのほうでもっていう考 </p>

	え方もあるかなとは思いますが。それを皮切りっていうか、勢いづけるためにもやってもいいかなと思います。
斉藤委員	里親さんがいないと来られないってことですね。
早田委員	そう、里親が難しい。
佐伯委員	今ね、そこがネックになっている。
斉藤委員	里親さんの補助とプラスワンかなんか。変な言い方ですけどね。
中島教育長	さっき、おっしゃった壱岐の3つのパターンですね、これが非常に参考になるかなと思うんですけどね。
斉藤委員	壱岐は8万とか言ってますもんね。
中島教育長	孫もどし案とか、親子留学とかですね。
斉藤委員	8万円プラスしいたけ？とかですかね？
一宮委員	<p>それで、対馬の場合が島留学を、最初はそこからスタートしたけれど、今ちょっと厳しいと、里親さんの確保や何かで。ではどのように広げていくかっていうのに、どういうタイプで、目的をどうするっていうのをもう一回練り直さないといけないことになりますよね。</p> <p>そして里親制度じゃなくて、住宅ももったいないところが空いてますしですね。いろんな、孫戻し型にしてどうするのかということも。</p> <p>少ししまづくりの形になりますよね、今の市長さんのお考えは。今までは学校強化とかしていましたが、進め方が。なんかちょっと方向性が違ってくると思うんです。そのあたりが。</p>
比田勝市長	今ですね、確かその里親を募集する時は、ある程度校区を限定してるんですよ。それで、里親が手をあげる方が少ないと思うんです。そこを逆にもう、校区を限定しなくて、もしそういったことで里親になっていただける方がいらっしゃればということで、募集をかけたらどうかと思いを抱いているんですね。
中島教育長	はい、何を売りにするかということですよ。20ページに五島のしま留学の久賀島が書いてありますけれども、久賀島はですね、元々その島に住んでいる中学生は、全校生徒の中で1人か2人しかいないんですね。もうほぼ離島留学生なんです。で、この子たちが何を求めてきてるかという、これはホームページ等書いてあるんですけど、学校だより等にですね。元いた学校では自分の意見を言うことができなかったという子がほとんどなんです。となると、もうどの島に行くにしても、元の学校よりも規模の小さい学校になってるんですよ。そのことが、もうそれだけでその子にとっては、十分なメリットになってるんじゃないかなと思うんです。ですから宇宙留学とか、

	<p>そういうキャッチフレーズは難しいかもしれませんが、やはり少人数の中で、のびのびと学生生活を送ることができますよっていうことが、ものすごく魅力的なことに、多くの来たいと思う子にとってはですね、映るんではないかな、と私は思います。</p> <p>どういうタイプを今後考えていくかについては、検討が必要になってくるかと思うんですけども。</p>
斉藤委員	空き教員住宅を提供とかありますもんね。
中島教育長	となると校区が絡んでくるんですよ。
斉藤委員	多少良くするためにも、お金もかかるでしょうね。
佐伯委員	個人的にはね、釣りの聖地って言われてるぐらいですから。
佐伯委員	いや、全国からたくさん来られているし、熱狂的な人たちはもう住みたいっておっしゃるんですけども。五島は比べ物にならないそうですね。五島へ行って、対馬に来ると対馬はすごいっておっしゃいますもんね。
進行・梯	他にご意見ございませんでしょうか。
比田勝市長	この問題は少し良くもんでもらったほうがいいかもしれないですね。
佐伯委員	クロスオーバーして他の部局とも話し合う場を設けていただいた方が良いような気がしますね。
一宮委員	<p>ただ、はっきりしてるのは、現在通学してる学校にはなかなか馴染めないで、どうしても島の素朴な自然とか人間関係とか、そういうところを求めて来る人がほとんどだと思うんです。どこにしても壱岐にしても。だからそれを基本に置いて。</p> <p>対馬の場合は南北に長いので、なかなかそのあたりの住まいとかいろんな部分もあると思うんですけど。そこのあたりを大事にしたほうが良いのかなど。この孫戻し型というのもあっていいかもしれない。</p>
教育総務課 扇課長	<p>いいですか。</p> <p>私、今年、4月から異動で来たんですけども、初めてこの島っこ留学の対応をさせてもらってるんですが、今年度、事前視察に3組来られて、3組の親子とお話をさせてもらったんですけど、やはり3組が3組ともマンモス校なんです。1学年あたり300人とか。同級生の顔は多くて覚えられないし、先ほど教育長が言われたように、なかなか人数の中で自分の意見が言えないとか、やはりそんな感じのところがあり、今回視察に来られて、親の気持ちとしては、そんなところ</p>

	<p>よりももうちょっと少ない学校で、自分と友達の間とか、先生との時間とかを作ってもらいたいという親の考え方がありました。そのへんで、やはり今回いろいろとお話させてもらって、3組が3組ともそんな感じでした。学校の環境を変えたいという希望が1番ありました。</p>
比田勝市長	<p>さっき早田委員から話があったように、本当に昆虫なんか好きな子どもにとっては、今、博物館の展示室なんかで見せたら、本当喜ぶでしょうね。それこそ学校には行かんで山の中ばかりに行くような子どもが来るかもしれんけれど。そういったところもね。1つの魅力ではあると思うんです。</p>
早田委員	<p>そういう元気な子が来てくれたらね。</p>
進行・梯	<p>その他ご意見等ございましょうか、よろしいでしょうか。はい、ありがとうございます。</p> <p>それでは意見も無いようでございますので、これを持ちまして総合教育会議を終了したいと思います。</p> <p>不慣れな進行でご迷惑おかけしましたが、ご協力いただきまして、ありがとうございました。</p>
会場	<p>ありがとうございました。</p>

会議の経過を記載して、その相違ないことを証するため、ここに署名する。

令和 年 月 日

委 員 (自署)

委 員 (自署)